



南山城相談支援センターニュース

〒619-0231 京都府相楽郡精華町山田医王寺1 TEL: 0774-72-7255



今年度もよろしくお願ひします！



南山城相談支援センターの平成31年度（平成最後）のセンターニュースです。

今年度は、新センター長（畔柳順一）＋地域支援コーディネーター3名（木村志保・有山すみれ・関根桜子）のスタートです。地域の特別支援教育の発展のために役割を果たしていきたいと思ひます。センターニュースでは、圏域内の実情に合った支援や工夫についての情報や、おすすめの本や教材などの紹介をしていきたいと考えています。是非、ご活用ください。

昨年度、相談の多かったケース特集

今回は、昨年度の当センターの相談の振り返りと、その中からよく上がっていた相談内容（主訴）を取り上げてその支援内容をお伝えします。今後、参考にしていただければと思ひます！

| | |
|--------------|------|
| 新規相談件数 | 206件 |
| 学習 | 53件 |
| コミュニケーション・生活 | 103件 |
| 就学・進路 | 9件 |
| 支援体制 | 7件 |
| 研修について | 14件 |
| その他 | 20件 |

- ・延べ相談件数は581件（巡回・電話相談）
- ・巡回相談や検査等のアセスメントを行う中で、[学習]の困難さ（特にLD）から[コミュニケーション・生活]の困難さにつながっているケースが多くありました。また、その他の多くが不登校の相談でした。



ケース①「漢字（ひらがな）が覚えにくい、読み書きが苦手」

- ・『ICT 機器や支援グッズの活用』
DAISY 教科書や音声付き教科書を活用する。支援グッズの活用（総合教育センターでの貸し出しもやっています。）
- ・『漢字の覚え方は本人に合った方法で』
昨年度の第3号センターニュースを参考にしてください（本校HPにPDFがあります。）



ケース②「集中が続かない・ぼーっとしてしまう・多動」

- ・『授業の流れをアレンジ』
授業の合間にのびを入れる、生徒同士がO付けをし合うなど動ける活動を入れましょう。
- ・『感覚グッズで調整』
集中を高めるために、感覚グッズを活用して感覚刺激を取り入れましょう。





ケース③「忘れ物が多い、提出物が締め切りまでに間に合わない」

- 『目に見えるようにして残す。個別に声かけを。』
持ち物チェックリストの作成、提出物一覧表、付箋メモ
…初めは大人が書いて渡してあげるところからはじめましょう。
- 『物の置き場所を決める。』
それぞれの物を置く場所（しまう場所）を決める。
- 『一度に取り組む量を減らす』
小分けにして提示。スモールステップで提出日を設定。



ケース④「中学校に入ってから、学習についていけなくなった！」

- 『中学校の学習方法を丁寧に伝える』
中学校に入学後、小学校の学習の方法との違いから困難が出てきます。（定期テスト、提出物の量）
全体のオリエンテーションでは情報がつかめないことも。「個別」に伝えることも重要です。
→テスト期間はテスト勉強ができるようにコツコツ。1Pか2Pずつ必ず習慣づけてやる。
- 『小学校から、中学校での学習の仕方に慣れておく』
6年生後半から、徐々に取り入れてみていいかもしれません。（提出期限、テストの実施方法など）



上記は、ほんの一例です。大人から見ると「わかっている」ように見えても、実際には理解できていないことや、周りを真似しているだけのこともあります。児童生徒の様子を見て積極的に声かけをしたり、「困っていることを相談しやすい」信頼関係づくりが大切だと感じています。

| 判断仮説 | 指導仮説 <N> | 支援と配慮 |
|---|----------|---------------------------------------|
| 判断仮説（とその根拠）を記入する。 | | <学級における支援> |
| 指導の仮説 | | <通級指導教室等における支援> |
| | | <家庭における支援> |
| 判断仮説を踏まえ、原則的な配慮事項や指導もポイントを記入する。なお、「個別指導を行う。」等の指導形態ではなく、配慮内容を整理して記入する。 | | 指導の仮説をそれぞれの場で実施する上での具体的な内容やポイントを記入する。 |
| ※ 否定的なエピソードだけではなく、肯定的なエピソードも記載してください。（手立ての設定には不可欠。） | | |

【巡回相談に向けてのお願い】

〇気になる子へ試した支援は…

- ・アセスメント票の指導仮説<N>のところに記入してください。
- ・支援策が、“うまくいった” “うまくいかなかった” また、その理由もお聞かせいただくとスムーズに相談がすすみます。

〇資料を送付していただく際に、エピソード表や個別の指導計画（あれば）なども一緒にいただくと、事前に実態把握がしやすくなります。

よろしくお願いします。

畔柳センター長より一言

今年度、センター長を務めさせていただき畔柳です。子どもたちは障害からくる様々な生きにくさ、困り感[®]を持っています。家庭・学校と共に連携しながら子どもたちがよりよく学習・生活していくための支援を共に考えていきましょう。

